



1. 遺跡遠景(南から)



2. 調査区最終面全景(北から)



3. 作業風景(南西から)



4. J1号竪穴住居跡 十三菩提式土器出土状況(北東から)

[神奈川県教育委員会所蔵]

## ●主な調査成果

今回の調査で縄文時代の早期前葉と前期末葉の竪穴住居が発見されました。

早期前葉の竪穴住居からは燃糸文系土器が出土していますが、竪穴住居構築以前には落とし穴が発見されていることから、狩猟の場であったことと想定されます。

前期末葉の竪穴住居からは十三菩提式土器が出土しています。竪穴住居廃絶後には墓域に変遷する様相が、住居の床面で検出された土坑からうかがえました。この土坑が墓であることは副葬品と思われる磨製石斧や垂飾品の伴うことから推定されます。磨製石斧は石材が北海道の緑色岩（通称アオトラ石）と判明し、遠隔地と交流のあったことが確認されました。

- 調査期間 2018年8月1日～2019年3月29日
- 事業者 国土交通省関東地方整備局
- 調査原因 一般国道468号(横浜湘南道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、弥生、縄文、旧石器
- 所在地 鎌倉市関谷
- 遺跡位置 JR大船駅の北西約2.7kmの相模野台地上

